

令和 7 年度 宇治市献血推進協議会 議事録【概要】

日 時：令和 7 年 7 月 1 0 日（木） 1 4：0 0～1 4：4 5

場 所：宇治市役所 うじ安心館 3 階 ホール

出席者：（協議会委員）

高木敏貴委員、木村龍男委員、日野真代委員、
佐野恵理子委員、三浦真委員、三好望委員、村上仁委員、
大下明氏（重見博子委員の代理）

（京都府赤十字血液センター）

奥村献血推進課推進二係長

（事務局）

星川健康長寿部長、堀江健康長寿部副部長
永池課長（事務局長）、三好副課長兼地域企画係長
奥野主査、野崎主任、井上主事

欠席者：山岡すが子委員、澤田祐樹委員、安井和彦委員、定免享佑委員

【次第】

1 開会

2 挨拶

3 情報提供

『京都府の献血の状況について』

京都府赤十字血液センター奥村係長より別紙資料をもとに説明

- ・京都府内での献血者数は、令和 6 年度が 108,055 人であった。令和 5 年度は 100,284 人であった。
- ・献血には大きくわけて 4 種類あり、全血献血（血液中のすべての成分を採血する）とよばれるもので 400ml 献血と 200ml 献血、成分献血（血液中の血小板や血漿だけを採血する）とよばれるもので血小板成分献血（PC）と血漿成分献血（PPP）がある。成分献血は、京都府内では四条、京都駅前、伏見大手筋の固定施設（献血ルーム）でのみ実施している。
- ・京都府内の献血バスの出張所は伏見と福知山の 2 か所にあり、1 日多くて 4 台な

いしは 5 台稼働している。提供された血液は近畿ブロック血液センターが検査、製剤、冷蔵・冷凍保管の順に処理し、製品化して医療機関へ届ける。

- ・血液の使用用途といえば大きな事故による出血で輸血されるイメージがあるが、大半はがんなどの病気の方への輸血に使用されている。
- ・献血者には誰に輸血されるかを明示しないが、献血血液がどのように使われているかを実感してもらえるように、輸血や治療を受けた患者もしくは家族の承諾を得た場合に限り『ありがとうの声』というメッセージを冊子等に掲載している。
- ・新型コロナウイルス感染症の流行により密を避ける動きから Web 会員サービス「ラブラッド」を使用した予約献血が多くなった。アプリで問診への事前回答ができるので、献血場所での滞在時間の短縮につながっている。
- ・アプリを継続的に協力するとポイントが貯まり、記念品と交換することもできる。予約の推進と献血される方の利便性の向上を図っていきたいと考えている。
- ・年代別輸血状況をみると 50 歳以上の方が 90% 近くを占めており、献血を支えている方も約 45% は 50 歳以上の方である。69 歳までの方しか献血ができないので、今、輸血医療を支えている 50 代ないしは 60 代の方は、10～20 年以内には献血できない年齢になってしまう。
- ・血液事業における若年層（10～30 代）の献血者数は右肩下がりになっており、喫緊の課題である。出張型の献血セミナーや夏休み期間に行う子ども献血ツアー（献血バスや施設の見学）などを実施し、青少年（小中高生）が献血できる年齢になった時に身近に感じてもらうように取り組んでいる。
- ・全国を 7 ブロックに分けて献血事業を広域化している。ブロック全体で必要な血液を空輸や高速道路の利用によって流通・確保し、このような調整を全国的におこなっている。
- ・アフターコロナで血液事業の様子も大きく変化した。以前は平日に民間企業や行政機関を中心として安定的に確保していたが、テレワークの推進による出社率低下もあり、コロナ前ほどの状況に戻っていない。もし知り合いや友人など事業所の献血を紹介できる場合は、京都赤十字血液センターまでご連絡いただきたい。
- ・需要に応じた献血血液を安定的に確保し、安全性・品質向上に取り組み、血液が必要な方の助けになるよう取り組んでいきたいので、今後とも皆様のご協力をお願いしたい。

○質疑応答

→ 質問なし。

5 議事

(1) 令和 6 年度事業実施報告

○資料 1－①～1－⑤に基づき事務局より報告

○委員より質問、意見等なし

→ 令和 6 年度事業実施報告を承認

(2) 令和6年度収支報告

○資料2に基づき事務局より報告

○委員より質問、意見等なし

(3) 令和6年度会計監査報告

○資料2に基づき監査委員より報告

○委員より質問、意見等なし

→ 令和6年度収支報告及び会計監査報告を承認

(4) 令和7年度事業計画について

○資料3-①、3-②に基づき事務局より説明

○委員より質問、意見等なし

→ 令和7年度事業計画を承認

(5) 令和7年度予算案について

○資料4に基づき事務局より説明

○委員より質問、意見等なし

→ 令和7年度予算案を承認

(6) その他

○質疑応答

委員

■他市町村での先進的な取り組みやPRなど、宇治市での献血活動にもつながりそうなものがあれば参考に教えていただきたい。

血液センター

■どの市町村でも積極的に献血を推進していただいているところではあるが、若年層の献血に関して、現在木津川市内の高校での献血セミナーおよび高校献血自体の受け入れを行政から積極的に交渉していただいている。京都府内には高校が数多くあるものの、献血の実施は3校の私立高校のみにとどまっている。府立高校や公立高校での実施がなかなか難しいと教育委員会からお聞きしている。保護者の理解も必要であり、最近の学校のカリキュラムが高校献血を入れる隙間がないほど決まっているという声もいただく。

1回目の献血のハードルは高く、大人になってから献血バスを見ても、「痛い」「時間がかかる」と敬遠されてしまう。10代の頃に1回でも献

血の経験があると、それが高校とりわけ母校での献血であれば思い出も残り、大人になってからの献血のハードルが下がることにつながると考えている。

会長

■若い時の献血というと、今 50・60 代の献血がかなり多いということだが、この年齢層はもともと若い時に献血されている方が多い。要は献血をした世代が高齢化により献血できない年齢になってきている。

昔の献血の上限は 60 歳ぐらいだったか。

血液センター

■以前の献血基準年齢の上限は 64 歳だったが、今は 69 歳まで延長されている。今のところ 75 歳に引き上げられる予定はないが、一職員の思いとしては、昨今の状況を踏まえると延長できればありがたいと感じているところである。

会長

■60 代ぐらいになると、皆色々な薬を飲んで献血に不都合が生じてくる。若い献血者の確保は今後の医療の面においてもかなり大きな課題ではないかと切に感じている。

事務局

■資料 1 - ②のとおり宇治市では大学でも実施していただいている。特に京都翔英高校での献血者数は 80 人で、事業所献血の中でもかなり多くの方にご協力いただいている。他の私立・公立高校や専門学校など検討の余地はあるので、血液センターと本市で協議しながらまたできることをやっていきたいと思う。

委員

■前年度の会場を見てみると、立地や広さの問題もあると思うが、会場がある程度限られているように見える。以前イズミヤ大久保店があった頃は大きな駐車場もあり採血車が来ていたと思うので、小倉や大久保など他の地域でも実施できればと思う。

事務局

■献血バスが止められるスペースの有無を前提としていることもあり、実施場所に地域的な偏りが出ているところである。最近久御山町の家電量販店の跡地にスーパーマーケットがオープンし、駐車場も大きいので、大久保地区など他の地域の方も行きやすいと思う。会場については血液センターとも情報共有しながら考えていきたい。

6 閉会

事務局より報告

今回の会議は、来年 7 月頃の開催を予定。